

## 平成30年度 社会福祉法人 アップルメント本部事業報告書

当法人は社会福祉制度の趣旨を正しく理解し、制度への対応を確実に進めるため①経営組織のガバナンスの強化②事業運営の透明性の向上③財務規律の強化④地域における公益的取り組みの4点を基本方針にのっとり取り組みを行った。

(重点目標)

- ・利用者サービスの質的向上
- ・施設経営の透明性の確保
- ・人権の擁護
- ・職員の経営方針の共有化
- ・コンプライアンスの体制や危機管理体制の強化
- ・ボランティアの受け入れと地域交流

(結果)

- ① 各事業の業務の見直しそれに伴う効率化、マニュアルの見直し、新人職員の指導対応などの見直しを行った。「指導に不安に思う」との意見が聞かれる。利用者支援と並行した支援を行う体制にも不慣れな様子も見られ、今後も課題となり引き続き取り組みを継続した。
- ② 事業運営の透明性に対しては閲覧対象書類の拡大、財務諸表、現況報告書、定款、規定の整備を行い、引き続き、公表義務の文章等はホームページや施設内の閲覧等を通じて公表を行なった。
- ③ 財務規律の強化に対しては、今年度の財政状況は厳しい状況と予想される中、安定した法人運営を展開していくために財源の確保(利用者の増加が急務)、支出(事業費等)の経費削減を課題として積極的に取り組んだ。このためには、明確な根拠のある整備が必要であり「社会福祉充実残額の明確化」社会福祉事業へ「計画的な再投資」も進めていった。パン工房増設により3月から人員の増加がみられ、令和元年に少し期待が見られるのではないかと判断した。
- ④ 福祉サービスを展開しているにもかかわらず、地域における公益的取り組みが認識されず、十分な発信をしていない状況と社会福祉法人の姿が地域住民にきちんと伝わっていない側面があることの課題が見えてきた。今後は、自らの取り組み、法人の存在意義をPRし、施設として信頼や協力を得るために引き続き情報発信をしていく。

### 法人の基盤の確立と運営の安定化

#### I、理事会の開催状況について

- 1、第1回理事会 平成30年5月23日(水)午後3時 アップルメント会議室  
理事定数6名 出席理事6名 監事2名

(審議事項)

- 第1号議案 平成29年度事業報告について

- 第 2 号議案 平成 29 年度決算報告について
  - 第 3 号議案 平成 29 年度監事監査報告
  - 第 4 号議案 文章取扱い規則別表の改正について
  - 第 5 号議案 社会福祉充実計画について
  - 第 6 号議案 その他
- 2、第 2 回理事会 平成 30 年 9 月 11 日（火）午後 3 時 アップルミント会議室  
理事定数 6 名 出席理事 6 名 監事 2 名  
(審議事項)
- 第 1 号議案 平成 30 年度予算執行状況について
  - 第 2 号議案 平成 30 年度実地指導の結果報告について
  - 第 3 号議案 測量事務所との随意契約について
  - 第 4 号議案 建築設計事務所との随意契約について
  - 第 5 号議案 用地造成工事業者との随意契約について
  - 第 6 号議案 増築工事指名業者の選定について
  - 第 7 号議案 パート職員給与規程の改定について
  - 第 8 号議案 その他
- 3、第 3 回理事会 平成 30 年 10 月 29 日（月）午後 1 時 アップルミント会議室  
理事定数 6 名 出席理事 5 名 監事 2 名  
(審議事項)
- 第 1 号議案 就労継続支援 B 型ペパーミント増築工事の予定価格及び最低価格の設定について
  - 第 2 号議案 パン製造器の予定価格について
  - 第 3 号議案 その他
- 4、第 4 回理事会 平成 30 年 10 月 29 日（月）午後 3 時 アップルミント会議室  
理事定数 6 名 出席理事 5 名 監事 2 名  
(審議事項)
- 第 1 号議案 落札業者との契約締結について
- 5、第 5 回理事会 平成 31 年 1 月 28 日（月）午後 3 時 アップルミント会議室  
理事定数 6 名 出席理事 6 名 監事 2 名  
(審議事項)
- 第 1 号議案 平成 30 年度予算執行状況について
  - 第 2 号議案 施設整備の工期延長について
  - 第 3 号議案 工期延長に伴う設計業者との契約変更について
  - 第 4 号議案 工期延長に伴う建築業者、パン製造機器業者との契約変更について
  - 第 5 号議案 その他
- 6、第 6 回理事会 平成 31 年 3 月 27 日（水）午後 15 時 アップルミント会議室

- 第 1 号議案 平成 30 年度補正予算について
- 第 2 号議案 平成 31 年度事業計画について
- 第 3 号議案 平成 31 年度当初予算について
- 第 4 号議案 会計ソフト、記録システムの導入について
- 第 5 号議案 評議員会に提出する議案について
- 第 6 号議案 その他

## II、評議員会の開催状況について

- 1、第 1 回評議員会 平成 30 年 6 月 8 日（金）午後 3 時 アップルミント会議室  
評議員定数 7 名 出席評議員 7 名 監事 2 名

(審議事項)

- 第 1 号議案 平成 29 年度事業報告について
- 第 2 号議案 平成 29 年度決算報告について
- 第 3 号議案 平成 29 年度監事監査報告
- 第 4 号議案 文章取扱い規則別表の改正について
- 第 5 号議案 社会福祉充実計画について
- 第 6 号議案 その他

- 2、第 2 回評議員会 平成 30 年 3 月 30 日（土）午前 10 時 アップルミント会議室  
評議員定数 7 名 出席評議員 7 名 監事 2 名

(審議事項)

- 第 1 号議案 平成 30 年度補正予算の承認について
- 第 2 号議案 平成 31 年度事業計画の承認について
- 第 3 号議案 平成 31 年度当初予算の承認について
- 第 4 号議案 会計ソフト、記録システムの導入の承認について
- 第 5 号議案 その他

## III、監事会の開催

監事 2 名により、平成 30 年度法人並びに経営施設の事業報告、決算書並びに理事の業務執行の状況および財産の状況について、「監事監査重点項目指針」に従って監査が実施された。

※監査日 平成 30 年 5 月 14 日（水）午後 1 時から 4 時 アップルミント会議室  
監査の結果、法人並びに施設の事業報告、決算報告、決算付属明細表、財産目録等いずれも適正であることが報告された。

## IV、職員の研修（職員のスキルアップ）

施設内・施設外

平成 30 年度研修報告書

- 1、パンの焼き方（キャリアパス）（園内研修）
- 2、場面緘黙所（キャリアパス）（園内研修）
- 3、平成 30 年度 精神保健福祉基礎研修会
- 4、アロマセラピー（キャリアパス）（園内研修）
- 5、生活保護の概要と現状～事例を通して～（キャリアパス）（園内研修）
- 6、平成 30 年度 障害者施設職員研修会（新任職員コース）
- 7、生活保護の概要と現状（キャリアパス）（外部講師依頼による園内研修）
- 8、ノーリフティングケアの推進 意識改革でケアの質が変わる
- 9、平成 30 年度 第 1 回福祉ネットワーク協議会
- 10、平成 30 年度 社会福祉施設等中堅職員研修会（B コース）
- 11、2018 年障害者の働く場パワーアップフォーラム
- 12、遺伝子的な原因で起こる知的障害（キャリアパス）（園内研修）
- 13、平成 30 年度社会福祉施設等事務担当職員研修会
- 14、第 51 回九州地区知的障害関係施設職員大会
- 15、平成 30 年度相談従事者専門コース別研修会「障害者ケアマネジメント研修」
- 16、認知症サポーターキャラバンの展開（キャリアパス）（園内研修）
- 17 平成 30 年度社会福祉法人経営セミナー
- 18、平成 30 年効果的な部下、新人育成の実務研修
- 19、平成 30 年度社会福祉施設等指導監督職員研修会
- 20、食品表示入門コース
- 21、クレヨンで量感画
- 22、個別支援作成及び運用に関する研修会
- 23、緩和ケア
- 24、G A P 入門と H A C C P 導入のための食品衛生管理セミナー
- 25、生活介護事業の充実に向けて（キャリアパス）（園内研修）
- 26、平成 30 年度九州社会就労センター研究大会
- 27、平成 30 年度安全運転管理者講習会
- 28、平成 30 年度大分県障がい者虐待防止、権利擁護研修
- 29、「虐待」とは？（キャリアパス）（園内研修）
- 30、平成 30 年度相談支援従事者専門コース別研修会
- 31、第 56 回全国知的障害福祉関係職員研究大会
- 32、社会福祉施設長研修会
- 33、ダウン症候群について（キャリアパス）（園内研修）
- 34、「パーキンソン病」（キャリアパス）（園内研修）
- 35、就労支援事業所協議会職員研修
- 36、精神障害について（キャリアパス）（園内研修）

- 37、平成 30 年度「サービス管理責任者等研修会」(就労)
- 38、平成 30 年度「サービス管理責任者等研修会」(共通、地域生活)
- 39、平成 30 年度総合医学会総会
- 40、障害者福祉サービス利用の手続き (キャリアパス) (園内研修)
- 41、平成 30 年度大分県知的障害者施設協議会 職員研修
- 42、平成 30 年度社会福祉法人 法人登記事務説明会

園内研修の件数は昨年と同様の回数で行われた。特に昨年は九州学会への発表も行われ、発表者本人の自信に繋がったことや、事前に園内で発表を行うことで職員間の共有や確認ができた。又、外部講師による「生活保護の概要」のテーマで研修を行なった。他施設への声掛けにより多数の参加者となった。引き続き、職員の希望のテーマに沿って開催を計画する予定である。

資格取得については職員ほぼ全員が介護福祉士、社会福祉士、社会福祉主事、保育士、実務者研修と介護の資格を取得している。平成 30 年度も 2 名の介護福祉士の資格、1 名社会福祉士の資格を取得した。資格を有することがその支援の内容を保障するものではないが、しかし、資格を取るためにそれなりの勉強や努力をしてきたことが、職員自身のスキルアップにも繋がることとなり、一福祉職員としての自覚が更に強化された。

#### V、日常の健康管理

年 1 回の健康診断を行っている。(就労支援継続 B 型、グループホーム)

日常の利用者の健康管理を看護師が中心に行っています。他に嘱託医 2 名、内 1 名の嘱託医が定期的に来園し看護師と共に施設内を巡回し、利用者の健康状態の把握に努めた。結果、病院受診に繋がり、健康の維持や疾病の悪化が軽減されたケースが数例あった。右手首を骨折した利用者に対して、理学療法士によるリハビリを取り入れ、積極的に機能回復に努めた。結果、利用者は高齢者にも拘らず、早期に作業に復帰することができた。

#### VI、防災避難訓練

- ・毎月 1 回の火災訓練、地震による避難訓練を行った。訓練内容は通報・消火・避難誘導・避難経路を把握するなど一連の流れを訓練した。又、グループホームでは夜間の避難訓練が行われ、落ち着いて避難することができた。河川の氾濫による避難も常に考慮すべきことなので、近くの高台 (団地) への避難を計画し、今後も利用者が不安を覚えることなく又、尊い命の保証を確保するために避難誘導に力を入れたい。
- ・直接、防犯には結びつかないが室内全体が把握できるように防犯カメラを導入した。結果として、てんかん発作や利用者の行動が事後に把握でき (記録)、診察時に情報提供ができたことにより、薬の調整に繋がった。

#### VII、地域交流及び行事報告

- ①夕涼み会 7 月例年通り行事をとおして地域の方に園を知ってもらう内容の企画とした。

また、保護者相互の連携を深める事や利用者の施設での活動状況の報告など共有できる場とした。特に保護者や地域の方とのゆっくりとした時間を共有したいとの配慮から園内に喫茶コーナーを設け、抹茶プリン、ソフトクリームなど、今までと違った取り組みを行なった。結果、とても好評だった。

②クリスマス会 12月恒例の餅つきを行い地域の方、保護者の協力のもと行われた。夕涼みの時にも好評であった喫茶コーナーを開設し、抹茶を立てるなどのもてなしを行うことで地域の方たちとの交流を深めることができた。

## VIII、実習生の受け入れ

- ・教員免許取得に係わる介護体験の実習の受け入れを行った。
- ・介護福祉士を養成する高等学校からの実習の受け入れを行った。
- ・社会福祉士養成する大学からの実習の受け入れを行った。

実習を受け入れ事は現場として、大変な面もあるが、実習生が入ってくれることで利用者の喜ぶことや職員にも刺激を与えてくれます。福祉の現場を実際見てもらうことで、福祉に興味を持っていただくことができた。

又、夏季休暇に支援学校の教師による実習を受け入れる事で施設を理解していただけたことから今後の生徒の実習に役立つことができた。

## IX、インシデント・アクシデント

平成30年度は、2件が報告されました。

- ・送迎時交差点内にて無理な右折をして苦情の電話があり。電話はすぐに切られたために相手に状況を説明できなかつた。利用者は乗っていなかつた。

交差点内は左折、直線優先なのでゆとりを持って運転して欲しい。特に相手の左折の車の後ろに直進者が来る可能性もあるので最後まで待つて右折をする事。アップルミントの看板を背負っているので責任をもった運転に心がけるように指導する。また、電話の応対も苦情の時ほど冷静に相手のお話を傾聴し、相手の名前や電話番号を確認すること事実確認を行った後、必ず連絡ができるようにするように努めた。

保険会社との連携で職員全員に運転に関するアンケートを実施した。自分の運転技術や性格などを分析することで安全運転への意識づけができた。

- ・園の廊下で利用者が転倒する。原因として、販売時間に遅れそうになり、園の廊下を走り、左足首を打撲した。外は雨後で濡れていたことでエントランスにも水分が残っており、また、本人から気持ちに焦りがあつたと情報があつた。特に負傷した個所の腫れもなくシップのみで対応し、保護者に連絡をした。その後も腫れの出現はなく経過し、上靴は滑りにくいものを選んだ。職員間では時間の余裕を持つように声かけをすることを職員全体で注意喚起をした。